

第8回学生のヒマラヤ野外実習ツアー報告

吉田勝（ゴンドワナ地質環境研究所）

表題の実習ツアーは日本発着3月4日～18日の15日間にわたって実施され、好天に恵まれ、特筆される問題もなく無事終了した。参加者は総勢20人で、日本各地10大学（北大・弘前大・東北大・筑波大・信州大・千葉大・名大・岡山理大・神戸大・広島大）の1年生から修士課程1年生の14人、高校1年生1人、一般2人、中国の北西大学生1人、ネパールのトリブバン大学生2人であった。一般参加の2人はカトマンズでの現地参加であった。ツアー実施前に日本人の指導登録者24人を対象にツアーリーダーの公募を行い、ヒマラヤの野外地質調査に長い経験を持つ丸尾祐治博士（株・地球システム科学・上席技術顧問）にサブリーダーとして参加頂くことができた。また、トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室（TU）から M. Paudel 准教授に参加頂いた。

3月4日、中国南方航空で関空或いは中部国際空港を出発して広州経由でカトマンズに同日深夜に到着した。翌日5日午前中はTU学生数人も参加してプレツアーセミナー、午後はTU学生20人と合同で4組に分かれて市内の世界文化遺産見学を行った。夕方にはツアーチームの懇親夕食会を、TU教室主任代行のP.D.ウラーク准教授の参加を得て市内のローカルレストラン「クマリ」で行なった。

6日～15日はバス及びジープでカトマンズ - ポカラ - ムクチナート - ポカラ - タンセン - ルンビニ - ナラヤンガート - ムグリン - カトマンズのコースで地学野外実習ツアーを予定通り実施することができた。なお、カグベニ～ムクチナート間は積雪のため露頭の化石探索は難渋した。また、他の区間でも、積雪やジープの故障のため、例年行っていた野外スケッチは取り止めざるを得なかった。



ムスタンの山々をバックに、カグベニ東のテラスでSHET-8参加者全員集合

野外実習ツアーでは、メンバーの点呼委員会・食事各種の注文受付委員会・ホテルの部屋割り委員会などを学生数人ずつで構成し、多くの学生がツアーの運営に多少携わるようにした。ま

た、一般参加の黒川佳澄氏（東京海外旅行研究会）には、参加者の体調観察役としてご尽力頂いた。今回の実習ツアーの指導者は吉田の他に初参加の丸尾博士、TU 派遣の Paudel 博士に加えて、一般参加の棚瀬充史氏（地質コンサルタント）にもご協力頂いて 4 人となり、ツアーの実習効果は大いに上がったと思われる。

カトマンズ帰着翌日の 3 月 16 日午後は、TU 学生も多数参加して参加者全員が 1) 最も感動した地学関連事象、2) 最も感動した地学関連以外のことの 2 点について英語で報告し、質疑応答が行われた。夜はトリブバン大学地質学教室関係者も加えたさよならコンパが市内の日本食堂「桃太郎」で行われ、久しぶりの日本食で大いに盛り上がった。翌 17 日は終日、TU 学生 18 人に案内されて 3 組に分かれて市内見学会を行った。同日深夜にはカトマンズ発、翌日日本帰着となった。

上記のように、実習ツアーは予定通り実施できたが、道路の拡張工事による交通止めは各所で数時間あり、また、深刻なジープの故障が 4 台中 3 台に発生し、行程の確保に苦勞を強いられた。一方、カグベニ - ムクチナート間とナラヤンガート - ムグリーン間は道路舗装が完成しており、快適に通行できた。道路工事の様子からすると来年はさらに舗装区間も広がり、全行程でバスが利用できそうで、行程が楽になるであろう。

参加者全員、深刻な健康問題は無かったが、ムクチナート到着前後から軽度な高山病や胃腸障害を発症した学生が 8 人、ツアー終了近くのルンビニ宿泊時前後に胃腸障害を発症したものが 4 人と、例年よりも格段に多かった。いずれも適当な薬の服用で回復したが、罹患した参加者にはつらい日々となった。原因は多くの場合環境変化と精神的なストレスではないかと推定され、今後の問題を残した。

航空運賃以外の実習ツアーの経費は日本人学生参加者 15 人の 1 人当たり 114,593 円、一般参加者 2 人はプラス 50,000 円の 164,593 円であった。しかし 3 組織からの寄付金と一般参加者の寄与による収入が 405,000 円あり、実際の実習ツアー参加費は一人当たり学生が 90,769 円、一般が 140,769 円であった。航空運賃が例年よりも 3 万円前後高額で学生一人当たり平均 89,412 円であったため、学生の一人当たり平均参加費総額は 180,181 円であった。

以上、実習ツアーは予定通り全行程を無事に終了し、参加者も各自なりに大きな収穫を得たと思われる。とりわけ、参加者に多少ともツアー運営にかかわって頂いた今回の試みは、参加者に幾分とも自主的手作り実習ツアーを意識して頂けたのではないかとと思われる。

来年 3 月の第 9 回学生のヒマラヤ野外実習ツアーは今回の経験を踏まえ、行程を若干楽にする方向を検討する予定であり、今回の実習ツアーの報告書発行を予定している 5 月には参加者募集を開始したい。

本実習ツアーを主事業とする学生のヒマラヤ野外実習プログラムには日本地質学会をはじめ多くの組織と個人の方々にご後援名義やご推薦を頂いている。また、全国の大学の地学関連教室には、所属学生に対する本実習ツアーの周知にご協力頂いた。記して謝意を表したい。

以上